改訂日　2026 年 4 月 1 日 （第 6 版）

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	フォリオゴールド
デザインコード	A13842C
会社名	シンジェンタジャパン株式会社
住所	〒104－6021 東京都中央区晴海 1 丁目 8 番 10 号オフィスタワーX　21 階
担当部門	HSE グループ
電話番号	03－6221－1027
E メールアドレス	SDS-JP@syngenta.com
緊急連絡先	同上
緊急連絡電話番号	日本中毒情報センター 中毒 110 番 一般市民向け受信相談(情報料無料): 大阪 (365 日・24 時間): 072-727-2499 つくば(365 日・24 時間): 029-852-9999 医療機関専用有料電話(Syngenta 負担): 大阪 (365 日・24 時間): 072-726-9923 つくば(365 日・24 時間): 029-851-9999
推奨用途	殺菌剤
使用上の制限	推奨用途以外の用途に使用する場合は、専門家の判断を仰ぐこと。

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

急性毒性 (吸入)	区分 3
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2A
呼吸器感作性	区分 1
皮膚感作性	区分 1
発がん性	区分 2
授乳に対する又は授乳を介した影響	
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 2 (中枢神経系, 血液系)
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 3 (気道刺激性)
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 2 (腎臓, 中枢神経系, 呼吸器)
水生環境有害性 短期（急性）	区分 1
水生環境有害性 長期（慢性）	区分 1

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語　危険

危険有害性情報

H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

H319 強い眼刺激

H331 吸入すると有毒

H334 吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ

H335 呼吸器への刺激のおそれ

H351 発がんのおそれの疑い

H362 授乳中の子に害を及ぼすおそれ

H371 臓器(中枢神経系, 血液系)の障害のおそれ

H373 長期にわたる、又は反復ばく露により臓器(腎臓, 中枢神経系, 呼吸器)の障害のおそれ

H400 水生生物に非常に強い毒性

H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】 P203 使用前にすべての安全説明書を入手し、読み、従うこと。

P260 ミスト／蒸気を吸入しないこと。

P263 妊娠中及び授乳期中は接触を避けること。

P264 + P265 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。眼には触らないこと。

P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

P273 環境への放出を避けること。

P280 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

P284 換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

【応急措置】 P302 + P352 皮膚に付着した場合:多量の水で洗うこと。

P304 + P340 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移 し, 呼吸しやすい姿勢で休息させること。

P316 すぐに救急の医療処置を受けること。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P308 + P316 ばく露又はばく露の懸念がある場合:すぐに救急の医療処置を受けること。

P318 ばく露またはその懸念がある場合は、医学的助言を求めること。

P319 気分が悪い時は、診察を受けること。

P333 + P317 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合:医療処置を受けること。

P337 + P317 眼の刺激が続く場合:医療処置を受けること。

P342 + P316 呼吸に関する症状が出た場合:すぐに救急の医療処置を受けること。

P362 + P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

P391 漏出物を回収すること。

保管　P403 + P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

P405 施錠して保管すること。

廃棄　P501 内容物/容器を都道府県/政令指定都市等の規則に従って廃棄すること。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性

知見なし。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　　混合物

成分

化学名	CAS 番号	含有量(% w/w)	化審法(ENCS)/安衛法(ISHL) 番号
クロロタロニル(TPN)	1897-45-6	32.0	3-1805 /4-(7)-539
プロピレングリコール	57-55-6	>= 1 - < 10	2-234
メタラキシル M	70630-17-0	3.3	4-(7)-2441
1,2-ベンゾチアゾリン-3-オン	2634-33-5	>= 0.1 - < 1	9-1845
ジプロピレングリコール	25265-71-8	>=0.1- <1	2-413

4. 応急措置

一般的アドバイス　　緊急連絡先、中毒情報センターや医師に電話する場合、または治療を受けに行く場合は、製品容器、ラベル、安全データシートを手元に用意すること。

吸入した場合　　被災者を空気の新鮮な場所に移す。

呼吸が不規則または停止している場合は、人工呼吸を行う。

患者を暖かく安静にしておく。

直ちに医師または日本中毒情報センターに連絡する。

皮膚に付着した場合	直ちに汚染された衣服を脱がせる。 直ちに多量の水で洗い流す。 皮膚の炎症が続く場合は、医師に連絡してください。 汚染された衣服は再使用する前に洗濯すること。
眼に入った場合	直ちに、最低 15 分間はまぶたの内側も含め、多量の水ですすぐ。 コンタクトレンズをはずす。 直ちに医師の診察を受ける必要がある。
飲み込んだ場合	飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受け、この容器ないしラベルを見せること。無理に吐かせないこと。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	知られていないか予想されない症状。 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。 強い眼刺激。 吸入すると有毒。 吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ。 呼吸器への刺激のおそれ。 発がんのおそれの疑い。 授乳中の子に害を及ぼすおそれ。 臓器の障害のおそれ。 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ。
医療関係者への情報	特定の解毒剤はない 対症療法を行う

5. 火災時の措置

消火剤	小規模火災時:	水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用する。
	大規模火災時:	耐アルコール性泡消火剤、水噴霧
使ってはならない消火剤	棒状水による消火は、火災が激しくなったり飛び火したりするので、行ってはならない。	
特有の危険有害性	可燃性有機成分を含有するため、火災時に有害性物質を含む黒煙が発生するおそれがある(「10. 安定性及び反応性」参照)。 分解生成物へのばく露は健康を害する可能性がある。	
有害燃焼副産物	炭素酸化物 (CO, CO_2) 窒素酸化物 (NOx) 塩素化合物	
特有の消火方法	火災時には消火用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止する。 水を噴霧して密閉容器を冷却する。	
消火を行う者の保護	完全な保護服と自給式呼吸器を着用する。	

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	「7. 取扱い及び保管上の注意」および「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い必要に応じて保護具を着用する。
環境に対する注意事項	安全を確認してから、漏出または流出防止の措置をとる。 河川または下水システムに排水しない。

	製品が河川、湖水または排水管を汚染した場合は、関連当局に連絡する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	漏出物を閉じ込め、不可燃性の吸収剤（砂、土、珪藻土、バーミキュライト等）を使用して集め、地域/国の規則に従い廃棄するために容器に入れる（項目 13 を参照）。 汚染面を十分に浄化する。 洗剤で拭く、溶剤は避ける。 汚染された洗浄水を保管し、処分する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項	火災に対する特別な対策は必要ない。 皮膚や眼への接触を避けること。 使用中は飲食及び喫煙を禁止する。 個人保護については項目 8 を参照する。
接触回避	知見なし。

保管

安全な保管条件	特別な保管条件は必要ない。 容器を密閉して、乾燥した、涼しく換気の良い場所で保管する。 子供の手の届かないように保管すること。 食品、飲料水、動物の餌から離しておく。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 / 基準濃度 / 許容濃度

成分	CAS 番号	指標	管理濃度 / 基準濃度 / 許容濃度	出典
クロロタロニル（TPN）	1897-45-6	TWA	0.1 mg/m^3	Syngenta (2023 年)
メタラキシル M	70630-17-0	TWA	5 mg/m^3	Syngenta (2025 年)

設備対策	ばく露が避けられない場合、密閉および/または隔離することが、技術的に最も確実な防御手段となる 。 保護対策の範囲は、使用時のリスクによって異なる。 空気濃度を管理濃度 / 基準濃度 / 許容濃度値以下に保つ。 必要に応じて、追加の労働衛生に関連する情報を求める。

保護具

呼吸用保護具	労働者がばく露限界値を超える濃度にさらされる場合、適切な認定呼吸器を使用する。 ハーフ顔面マスク付きの呼吸器 マスク用のフィルターのクラスは、物質を扱っているときに発生する可能性のある最高予測汚染物質濃度（ガス／蒸気／エアゾール／粒子）に適したものなければならない。
手の保護具	
材質	ニトリルゴム
破過時間	> 480 min

手袋の厚さ	0.5 mm
備考	保護手袋を着用すること。適切な手袋を選ぶには、素材のみでなく、その他の品質に関する特徴を考慮する。製造者によっても違うので、その点にも注意する。手袋の供給業者が提供する透過性および破過時間に関する指示に従う。また、切り傷、擦り傷、接触時間など、製品が使われる特定の環境条件も考慮する。破過時間は、素材の特徴の中でも、手袋の厚さと種類によって決定されるので、その時々に測定されなければならない。手袋に劣化または薬品の浸透を示す兆候がわずかにでもある場合は、手袋を破棄し取り替えなければならない。
眼の保護具	密着性の高い安全ゴーグル 製品と眼が不慮に接触する可能性を払拭できない状況では常時ゴーグルを着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適した身体防具を選ぶには、そのタイプ、危険物質の濃度や量そして特定の作業場を考慮する。 汚染された衣服は洗浄してから再使用する。 不浸透性衣服を必要に応じて着用する。
保護対策	専門の保護具を使用すること。 個人用保護具の選定については専門家のアドバイスを求める。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	類白色
臭い	弱い
臭いのしきい(閾)値	データなし
融点/凝固点	データなし
沸点, 初留点及び沸騰範囲	データなし
可燃性(固体、気体)	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	引火しない。（ペンスキーマルテンス密閉式引火点試験）
分解温度	データなし
pH	5 - 9 (1 %w/v)
蒸発速度	データなし
自然発火温度	> 650 ℃
粘度	
粘度(粘性率)	43.9 - 358 mPa,s (40 ℃) 57.8 - 409 mPa,s (20 ℃)
動粘度(動粘性率)	データなし
溶解度	データなし
水溶性	データなし
溶媒に対する溶解性	データなし
n-オクタノール／水分配係数(log 値)	データなし

蒸気圧	データなし
密度	1.21 g/cm^3
相対ガス密度	データなし
爆発特性	爆発性なし
酸化特性	本製品は酸化性物質としては分類されない
粒子サイズ	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	合理的に予想できるものは、なにもない。
化学的安定性	通常の状態では安定。
危険有害反応可能性	通常の使用条件において既知の危険な反応はない。
避けるべき条件	指示通り使用すれば分解しない。
混触危険物質	知見なし。
危険有害な分解生成物	危険な分解生成物は知られていない。

11. 有害性情報

可能性のあるばく露経路の情報	飲み込んだ場合 吸入した場合 皮膚に付着した場合 眼に入った場合

急性毒性

吸入すると有毒。

製品

急性毒性（経口）	LD50 (ラット, メス): 5,000 mg/kg
急性毒性（吸入）	LC50 (ラット, オス): > 0.563 - < 1.12 mg/l ばく露時間: 4 h 試験環境: 粉じん/ミスト アセスメント: 成分/混合物は短時間の吸引後有毒。物質/混合物は危険物法規により特定された吸入における少々毒素のある物質ではない。
急性毒性（経皮）	LD50 (ラット, オスおよびメス): > 5,050 mg/kg

成分

クロロタロニル（TPN）

急性毒性（経口）	LD50 (ラット, オスおよびメス): > 5,000 mg/kg
急性毒性（吸入）	LC50 (ラット, オスおよびメス): 0.10 mg/l ばく露時間: 4 h 試験環境: 粉じん/ミスト
急性毒性（経皮）	LD50 (ラット, オスおよびメス): > 5,000 mg/kg

プロピレングリコール

急性毒性（経口）	LD50（ラット）: > 20,000 mg /kg

	アセスメント: この物質または混合物は急性の経口毒性はない。
急性毒性(吸入)	LC50 (ウサギ): 317,042 mg/l ばく露時間: 2 h 試験環境: 粉じん/ミスト
急性毒性(経皮)	LD50 (ウサギ): > > 2,000 mg /kg アセスメント: この物質または混合物は急性の皮膚毒性はない。

メタラキシル M

急性毒性(経口)	LD50 (ラット, メス): 375 mg/kg
急性毒性(吸入)	LC50 (ラット, オスおよびメス): > 2.29 mg/l ばく露時間: 4 h 試験環境: 粉じん/ミスト アセスメント: この物質または混合物は急性の吸入毒性はない。 備考: 調整可能な最高濃度
急性毒性(経皮)	LD50 (ラット, オスおよびメス): > 2,000 mg/kg アセスメント: この物質または混合物は急性の皮膚毒性はない。

ジプロピレングリコール

急性毒性(経口)	LD50(ラット): > 5,000 mg/kg
急性毒性(吸入)	(ラット): アセスメント: この物質または混合物は急性の吸入毒性はない。
急性毒性(経皮)	LD50 (ウサギ): > 5,010 mg/kg

皮膚腐食性/刺激性

入手可能なデータに基づくと分類基準は満たされない。

製品

種	ウサギ
結果	皮膚刺激なし

成分

クロロタロニル(TPN)

種	ウサギ
結果	皮膚刺激なし。

プロピレングリコール

結果	皮膚刺激なし

メタラキシル M

種	ウサギ
結果	皮膚刺激なし。

ジプロピレングリコール

種	ウサギ
結果	皮膚刺激なし。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

強い眼刺激

製品

種	ウサギ
結果	眼への刺激。

成分

クロロタロニル（TPN）

種	ウサギ
結果	眼に重傷のおそれ。

プロピレングリコール

結果	眼への刺激なし。

メタラキシル M

種	ウサギ
結果	眼に重傷のおそれ。

ジプロピレングリコール

種	ウサギ
結果	眼への刺激なし。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

呼吸器感作性

吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ。

成分

クロロタロニル（TPN）

種	ヒト
結果	皮膚感作性－区分1A、呼吸器感作性－区分1A に該当
備考	非常に希なケースだが、呼吸器系のアレルギー反応を引き起こす可能性がある。

プロピレングリコール

結果	皮膚感作性ではない。

メタラキシル M

種	モルモット
結果	皮膚感作性ではない。

ジプロピレングリコール

種	モルモット
結果	動物実験では感作性なし。

生殖細胞変異原性

データが不足しているので分類されていない。

成分

クロロタロニル（TPN）

生殖細胞変異原性 - アセスメント	動物実験では遺伝子の突然変異への影響はなかった。

プロピレングリコール

生殖細胞変異原性 - アセスメント	動物実験では遺伝子の突然変異への影響はなかった。

メタラキシル M

生殖細胞変異原性 - アセスメント	動物実験では遺伝子の突然変異への影響はなかった。

ジプロピレングリコール

生殖細胞変異原性 - アセスメント	In vitro 試験で、突然変異誘発性が示されなかった。

発がん性

発がんのおそれの疑い。

成分

クロロタロニル (TPN)

発がん性 - アセスメント	クロロタロニルは標的臓器毒性に伴う非遺伝毒性作用によりラットおよびマウスにおいて腎腫瘍を引き起こす。動物実験において発がん性の限定的な証拠がある。

プロピレングリコール

発がん性 - アセスメント	動物検査において発がん性の証拠はない。

メタラキシル M

発がん性 - アセスメント	動物検査において発がん性の証拠はない。

生殖毒性

授乳中の子に害を及ぼすおそれ。

成分

クロロタロニル (TPN)

生殖毒性 - アセスメント	授乳に対するまたは授乳を介した影響に関する追加区分に該当。

プロピレングリコール

生殖毒性 - アセスメント	生殖に対する毒性はない, 授乳への、および授乳による影響はない。

メタラキシル M

生殖毒性 - アセスメント	生殖に対する毒性はない。

特定標的臓器毒性物質(単回ばく露)

呼吸器への刺激のおそれ。

臓器 (中枢神経系, 血液系) の障害のおそれ。

プロピレングリコールを 1-10%含有するため、特定標的臓器毒性(単回ばく露)－区分 2(中枢神経系、血液系)に該当とした。

製品

アセスメント	この物質または混合物は特定標的臓器毒性物質、単回ばく露、気道炎症を伴う区分 3 に分類される。

成分

クロロタロニル（TPN）

アセスメント	この物質または混合物は特定標的臓器毒性物質、単回ばく露、気道炎症を伴う区分 3 に分類される。

プロピレングリコール

アセスメント	特定標的臓器毒性物質(単回ばく露)－区分1（中枢神経系、血液系）、区分3（麻酔作用）に該当。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

長期にわたる、又は反復ばく露により臓器 (腎臓, 中枢神経系, 呼吸器) の障害のおそれ。

プロピレングリコールを 1-10%含有するため、特定標的臓器毒性（反復ばく露）－区分 2(腎臓, 中枢神経系, 呼吸器)に該当とした。

成分

クロロタロニル（TPN）

アセスメント	この物質または混合物は特定標的臓器毒性物質(反復ばく露)としては未分類。

プロピレングリコール

アセスメント	特定標的臓器毒性物質(反復ばく露)－区分1（中枢神経系、呼吸器）に該当。

メタラキシル M

アセスメント	この物質または混合物は特定標的臓器毒性物質(反復ばく露)としては未分類。

誤えん有害性

区分に該当しない。

成分

プロピレングリコール

吸引性呼吸器有害性に該当しない。

12. 環境影響情報

生態毒性

製品

魚毒性	LC50（Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): 0.15 mg/l ばく露時間: 96 h
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性	EC50（Daphnia magna (オオミジンコ)): 0.29 mg/l ばく露時間: 48 h
藻類／水生生物に対する毒性	ErC50（Raphidocelis subcapitata （淡水性緑藻）): 2.9 mg/l ばく露時間: 72 h
	EC10（Raphidocelis subcapitata （淡水性緑藻）): 0.084 mg/l エンドポイント: 成長速度 ばく露時間: 72 h

成分

クロロタロニル（TPN）

魚毒性	LC50（Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): 0.039 mg/l

	ばく露時間: 96 h
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性	EC50(Daphnia magna (オオミジンコ)): 0.17 mg/l ばく露時間: 48 h EC50 (無脊椎動物): 0.074 mg/l ばく露時間: 48 h
藻類／水生植物に対する毒性	ErC50(Navicula pelliculosa (淡水珪藻)): 0.013 mg/l ばく露時間: 72 h EC10(Navicula pelliculosa (淡水珪藻)): 0.006488 mg/l エンドポイント: 成長速度ばく露時間: 72 h ErC50(Skeletonema costatum(海洋珪藻)): 0.015 mg/l ばく露時間: 72 h EC10(Skeletonema costatum(海洋珪藻)): 0.011166 mg/l エンドポイント: 成長速度 ばく露時間: 72 h
M-ファクター (水生環境有害性短期(急性))	10
魚毒性 (慢性毒性)	最大無影響濃度 (Pimephales promelas (ファットヘッドミノウ)): 0.0014 mg/l ばく露時間: 297 d
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 (慢性毒性)	EC10(Daphnia magna (オオミジンコ)): 0.035 mg/l ばく露時間: 21 d 最大無影響濃度 (Americamysis (アメリカミシス)): 0.0004 mg/l ばく露時間: 28 d
M-ファクター (水生環境有害性長期(慢性))	100
プロピレングリコール	
魚毒性	LC50 (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): 40,613 mg/l ばく露時間: 96 h 試験タイプ: 止水式試験
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性	EC50 (Ceriodaphnia dubia (ミジンコ)): 18,340 mg/l ばく露時間: 48 h 試験タイプ: 止水式試験
藻類／水生植物に対する毒性	ErC50 (Raphidocelis subcapitata (淡水性緑藻)): 19,000 mg/l ばく露時間: 96 h
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 (慢性毒性)	最大無影響濃度 (Ceriodaphnia dubia (ニセネコゼミジンコ)): 13,020 mg/l ばく露時間: 7 d 試験タイプ: 半静止試験
メタラキシル M	
魚毒性	LC50 (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): > 100 mg/l ばく露時間: 96 h LC50 (Cyprinus carpio (コイ)): > 100 mg/l ばく露時間: 96 h
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性	EC50 (Daphnia magna (オオミジンコ)): > 100 mg/l ばく露時間: 48 h
藻類／水生植物に対する毒性	ErC50 (Raphidocelis subcapitata (淡水性緑藻)): 271 mg/l ばく露時間: 96 h 最大無影響濃度 (Raphidocelis subcapitata (淡水性緑藻)): 19.7 mg/l

	エンドポイント: 成長速度 ばく露時間: 96 h
魚毒性 (慢性毒性)	最大無影響濃度 (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): 50 mg/l ばく露時間: 28 d
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 (慢性毒性)	最大無影響濃度 (Daphnia magna (オオミジンコ)): 25 mg/l ばく露時間: 21 d
微生物に対する毒性	EC50 (活性汚泥): > 100 mg/l ばく露時間: 3 h

残留性・分解性

成分

クロロタロニル(TPN)

生分解性	結果:易分解性ではない。
水中での安定性	分解半減期: 0.4 – 6 d(20 ℃) 備考: 製品は持続性ではない。

プロピレングリコール

生分解性	易分解性

メタラキシル M

生分解性	易分解性ではない。
水中での安定性	分解半減期: 22.4 – 47.5 d 備考: 製品は持続性ではない。

生体蓄積性

成分

クロロタロニル(TPN)

生体蓄積性	生物濃縮因子(BCF): 340 備考: 生物濃縮されない。

メタラキシル M

生体蓄積性	低い生態蓄積性。
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	log Pow: 1.71 (25 ℃)

土壌中の移動性

成分

クロロタロニル(TPN)

環境中の分布	備考: 土壌中でわずかに移動する。
土中での安定性	消失時間: 5 d 消失割合: 50 %(DT50) 備考: 製品は持続性ではない。

メタラキシル M

環境中の分布	備考: 土壌中できわめて移動し易い。
土中での安定性	消失時間: < 50 d 消失割合: 50 % (DT50) 備考: 製品は持続性ではない。

オゾン層への有害性

非該当

他の有害影響

成分

クロロタロニル(TPN)

PBT および vPvB の評価結果	物質は、難分解性、生体蓄積性、毒性 (PBT) ではない。
内分泌かく乱の可能性	物質には内分泌かく乱特性はない。

メタラキシル M

PBT および vPvB の評価結果	物質は、難分解性、生体蓄積性、毒性 (PBT) ではない。
内分泌かく乱の可能性	物質には内分泌かく乱特性ない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

残余廃棄物	薬剤または使用済み容器で池、水路、溝を汚染しないこと。 廃棄物を下水へ排出してはならない。 可能ならば、廃棄や焼却処理より再利用する方が好ましい。 リサイクルできない場合は、地域の規制に従って処分する。
汚染容器及び包装	残りの内容物を空にすること。 容器は 3 回すすぐ。 空の容器は、リサイクルまたは廃棄のために、認可を受けた廃棄物処理業者に委託する。 空の容器は再利用しない。

14. 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送(UNRTDG)

国連番号	UN3082
国連輸送名	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N.O.S. (クロロタロニル)
国連分類	9
容器等級	III
環境有害性	該当
備考	この製品は、単一または内部パッケージあたりの正味量が液体の場合は 5 L 以下、または固体の場合は単一または組み合わせパッケージに正味質量が 5 kg 以下でパッケージされている場合、免除の対象となる可能性がある。

航空輸送(IATA-DGR)

国連番号	UN3082
国連輸送名	Environmentally hazardous substance, liquid, n.o.s. (クロロタロニル)
国連分類	9
容器等級	III
ラベル (Labels)	Miscellaneous

梱包指示(貨物機) (Packing instruction (cargo air-craft))	964
梱包指示(旅客機) (Packing instruction (cargo air-craft))	964
環境有害性	該当
備考	この製品は、単一または内部パッケージあたりの正味量が液体の場合は 5 L 以下、または固体の場合は単一または組み合わせパッケージに正味質量が 5 kg 以下でパッケージされている場合、免除の対象となる可能性がある。

海上輸送(IMDG-Code)

国連番号	UN3082
国連輸送名	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N.O.S. (クロロタロニル)
国連分類	9
容器等級	III
ラベル	9
EmS コード (EmS Code)	F-A, S-F
海洋汚染物質	該当
備考	この製品は、単一または内部パッケージあたりの正味量が液体の場合は 5 L 以下、または固体の場合は単一または組み合わせパッケージに正味質量が 5 kg 以下でパッケージされている場合、免除の対象となる可能性がある。

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質(該当・非該当)

供給された状態の製品には非該当

国内規制

特定の国内規制については、「15.適用法令」を参照。

特別の安全対策

ここに提供されている輸送分類は、情報の目的だけのためで、本安全データシートの中で解説されるように開梱された材料の特性のみに基づいている。輸送分類は、交通手段、パッケージサイズと地域や地方の規則の変更により、変更される可能性がある。

緊急時応急措置指針番号 171

15. 適用法令

関連法規

農薬取締法

登録番号 第 22771 号

消防法

危険物、指定可燃物に該当しない。

化審法

優先評価化学物質

化学名	番号

プロパン－1，2－ジオール	106
1，1′ －オキシジ(プロパン－2－オール)	240

労働安全衛生法

製造等が禁止される有害物

非該当

製造の許可を受けるべき有害物

非該当

健康障害防止指針公表物質

非該当

変異原性の認められた化学物質(既存化学物質)

非該当

変異原性の認められた化学物質(新規届出化学物質)

非該当

名称等を通知すべき危険物及び有害物

法第 57 条の 2 (施行令別表第 9)

化学名	含有量(%)	備考
テトラクロロイソフタロニトリル (別名クロロタロニル又はTPN)	32	-
プロピレングリコール	>=1 - <10	-
1,2-ベンゾチアゾリン-3-オン	>= 0.1 - < 1	-

名称等を表示すべき危険物及び有害物

法第 57 条 (施行令第 18 条)

化学名	備考
テトラクロロイソフタロニトリル(別名クロロタロニル又はTPN)	-
プロピレングリコール	-

皮膚等障害化学物質 (労働安全衛生規則第 594 条の2)

化学名
テトラクロロイソフタロニトリル

がん原性物質(労働安全衛生規則第 577 条の2)

非該当

特定化学物質障害予防規則

非該当

鉛中毒予防規則

非該当

四アルキル鉛中毒予防規則

非該当

有機溶剤中毒予防規則

非該当

労働安全衛生法施行令 - 別表第一 (危険物)

非該当

毒物及び劇物取締法

非該当

化学物質排出把握管理促進法

第 1 種指定化学物質

化学名	管理番号	含有量(%)
テトラクロロイソフタロニトリル (別名:クロロタロニル又はTPN)	260	32

高圧ガス保安法

非該当

火薬類取締法

非該当

船舶安全法

危規則第 2,3 条危険物告示別表第 1: 有害性物質

航空法

施行規則第 194 条危険物告示別表第 1: その他の有害物

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

ばら積み輸送	有害液体物質には該当しない
個品輸送	海洋汚染物質

水質汚濁防止法

指定物質(法第2条4項、施行令第3条の3)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

産業廃棄物 (化管法第一種指定化学物質を含む)

16. その他の情報

本 SDS において労働安全衛生法の通知対象物質の濃度が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含む。2 項には政府による GHS 分類結果が反映されているため、11 項及び 12 項の試験結果と合致しない場合がある。
JIS Z 7252, JIS Z 7253 2025 に準拠

記載内容の取扱い	製品安全データシートは、化学製品を安全に取扱うための参考資料として、当該化学製品を取扱う事業者に提供されるものであって、安全を保証するものではありません。また、ここに記載された数値は規格値や品質を保証する数値ではありません。 この製品安全データシートは、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、本品(当該製品)に関する全ての情報が網羅されているわけではありません。また、記載内容は当該製品の一般的な取扱いについて記載したものです。従って、当該製品を取扱う事業者は、個々の取扱い等の目的への適合性を判断し、この安全データシートや製品ラベルに記載のものを含め、実状に応じたあらゆる適切な予備的措置を講じてください。 当社のいかなる保証違反においての責任は、製品の交換又は購入額の払い戻しに限られます。当該製品を取扱う事業者が、上記の適切な予備的措置を講じなかった場合、シンジェンタは責任を負いません。

その他の略語の全文

ACGIH : 米国。ACGIH 限界閾値(TLV)
ACGIH BEI : ACGIH – 生物学的ばく露指標(BEI)
安衛法(管理濃度) : 作業環境評価基準、健康障害防止指針
日本産業衛生学会 : 許容濃度等の勧告 – II.生物学的許容値
日本産業衛生学会(許容濃度) : 日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 –I.化学物質の許容濃度

ACGIH/ TWA : 8 時間、時間加重平均
安衛法(管理濃度) / ACL : 管理濃度、基準濃度
日本産業衛生学会(許容濃度) / OEL-M : 許容濃度

改訂履歴

改訂年月	項目	改訂箇所および内容	改訂理由
2026 年 3 月	2 項	注意書き、応急措置　フレーズ更新	JIS Z7253-2025 対応
	3 項	成分情報見直し	―
	11 項	成分毒性情報の見直し	―